

## J C U F 全国ユニオン通信 NO. 256

# 連合の総対話行動、トップバッターで 全国ユニオンに神津会長以下が訪問

連合では、「総対話活動」として神津会長が各産別と地方組織を直接訪問することを決め、1月31日にトップバッターとして全国ユニオンを訪問しました。

総対話活動の目的は①総対話活動を通じて、連合本部と構成組織・地方連合会との情報の共有化と意思疎通をはかる、②とりわけ、今期は「連合2035ビジョン」「連合運動強化特別委員会」「支え合い・助け合い運動基盤の具現化」といった重要なテーマがあり、積極的に参画していただくことにより、今後の連合運動に対する一体感を高める、③今期は連合結成30周年に向けた重要な期間であり、総対話活動での意見や提案を次期の運動方針につなげていく、というもの。

しかし、事前に提出された資料は、少なくとも全国ユニオンの活動実態を反映していない、労働争議を闘っている組合員、現場である職場に近いところで活動をしている声を直接聴いていただく場にしないと、対話にならない、などと注文を付けたところ、神津会長もこれを快諾。一応、こちらでの提案はするが、臨機応変に多くの現場の声を聴かせてほしい、といった旨の返事をいただきました。

それならば……ということで、派遣で17年働き続けてきて12月に雇止めになった派遣ユニオンの組合員、連合の組合があったが外資に追い出され、その後、リストラで退職に追いやられた東京管理職ユニオンの組合員なども発言。派遣ユニオンの組合員からは「派遣先には労働組合があって春闘などを行っているが、派遣は蚊帳の外。今回の雇止めに関してもまったく助けてくれなかった」などと依然として職場内で、非正規労働者が「仲間」として扱われていない現状を訴えました。

神津会長以下、真剣に耳を傾けていただき「各職場に連合の方針や運動を徹底させていかなければいけない」といった発言をいただきました。

予定時間は2時間でしたが、あっという間に過ぎたという印象。30周年を迎えた後の連合の運動にも、もっとしっかりと現場の声を反映させていく必要を感じました。

